

信綱と近代短歌。

一九九一年に一一一號が出ています。

記念大会、祝賀会は東京のサンケイホールで行いました。会場に柱があつて、使いくかつたのを覚えてるな。テーマは〈21世紀を展望する現代短歌のキーワード21〉、シンポジウムをやっています。篠弘、高野公彦、小池光、河田育子、加藤治郎、辰巳泰子といった人たちがゲストパネラーとして出ています。けっこうおもしろい話題が出ました。

田中 私は入会が一九八九年で、初めての全国大会は一九九一年の東京大会、つまりこの時です。築地正子さんがいらっしやっていた。

大野 一九九二年は幸綱先生が早稲田大学在外研究員として四月から一年間、一家でオランダに行かれたので、全国大会はありませんでした。

幸綱 斎藤さんはどこから全国大会に出ていますか。

斎藤 入会してしばらくは参加してなかったんです。記憶に残っているのは宮崎です。宮崎では二回やっていますが、最初のほうです。伊藤一彦さんがいろいろお世話してくださいました。

大野 一九九三年の宮崎ですね。先生がオランダから帰っていらつしやつた年です。

幸綱 テーマが〈自然と文学〉。

高山 私もその宮崎大会からの参加です。

幸綱 一九九四年が大阪の堺でした。テーマは〈女性と短歌〉。

晋樹 前登志夫さんと呼んだんです。独特の訥々とした語り口でお話しされたわけだ。

黒岩 前さんとトイレで一緒になってお話ししていたら、前さんは千里山の金蘭女子大学の先生をされていたんです。「月に一回か二回、女子大生から元気を貰いに行くんだよ」とか言われて、さすが、前さんだ。そんなことをちよつと思いましたが、前さんね（笑）。

晋樹 大阪のカルチャーにはしょつちゅう、吉野から来ておられました。

高山 毎回ですが、夜はよく飲んだなあという記憶があるんです。このときのオプシヨンが神戸であつて、神戸の街がすぐくきれいでした。でも、その翌年が阪神淡路大震災でした。神戸のロープウェイなど全部なくなりました。

大野 この頃は、僕は大会係でした。堺では西川和榮さんががんばってくれて、また

どこの大会でもその地方の歌会が献身的に準備をしてくれました。この年は真鍋美恵子さんが亡くなった年です。

大野 一九九五年が熱海です。西熱海ホテ

